

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：24302

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13272

研究課題名（和文）蝦夷地における風景の重層性解明-アイヌと和人の風景観に関する歴史地理学的研究-

研究課題名（英文）Investigating of multi-layered landscapes of Ezo-a historical geographical study into the way of thinking of landscapes of Ainu and Wajin-

研究代表者

阿部 美香（ABE, Mika）

京都府立大学・文学部・特別研究員(RPD)

研究者番号：80806860

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：1、「東西蝦夷山川地理取調圖」の蝦夷地部分に記される全ての地名9366の中から肯定的な意味の付く地名182を選出し分布図を作成した結果、和人が認識・使用した道や、運上屋等の交易に関わる場所から離れた場所にも、アイヌの人々が特別視したと考えられる場所は存在した。

2、蝦夷地に関する案内記『蝦夷行程記』から、和人の蝦夷地各地への場所認識を分析し、和人が蝦夷地各所を評価する際の指標には、1産物の有無への着目、2その場の風景や眺めへの賞賛・繁昌地への着目、3、通行に関する視点等があった。

3、北海道十勝地方で現地調査を行い、アイヌ民族の方々から、営みがつくり出す風景に関わるお話を伺うことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

まず第一に、本研究の学術的意義の一つ目は、アイヌ民族の風景観という視点でアイヌ民族と江戸末期の蝦夷地の関係を読み解き、さらに和人との関係性を考察する作業から、歴史地理学と歴史学、文化人類学、民俗学等を架橋することにある。学術的意義の二つ目は、具体的なアイヌ語地名とその地名の存在する場所を、アイヌの人々による評価という視座から考えることで、これまで提示されてきたアイヌの人々の自然観等に加え、風景への見方という新たな価値観を検討する素地を与えられることである。また、アイヌの人々の風景への価値観を社会に示すことは、アイヌ民族への理解を社会の中で深める助けとなり、大きな社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：1. I selected 182 place names with positive meanings from all 9,366 place names recorded in the Ezo section of the "East and West Ezo Mountains and Rivers Geographical Survey Map" and created a distribution map. As a result, we found that there were places that the Ainu people considered special, even in places far from roads that the Japanese knew and used, and trade-related places such as customs houses.

2. I analyzed the Japanese people's recognition of places in Ezo from the Ezo guidebook, and found that the indicators that the Japanese used to evaluate places in Ezo included 1. focusing on the presence or absence of products, 2. praising the scenery and views of the place and focusing on prosperous areas, and 3. a perspective on passage.

3. I conducted a field survey in the Tokachi region of Hokkaido and were able to hear from Ainu people about the scenery created by their activities.

研究分野：歴史地理学

キーワード：蝦夷地 北海道 アイヌ民族 和人 東西蝦夷山川地理取調圖 江戸末期 風景観 地名

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

人間の生活の表れである風景に関する議論は、地理学のみならず建築学、土木学、造園学等における重要な論題であり続けている。歴史地理学においても殊に歴史的な風景に関する研究は枚挙にいとまがないが、先住民族がつくり出した風景へ言及するものは圧倒的に少ないと言わざるを得ない。既往研究では、古代条里制の復原に始まり、中世・近世の都市・農村風景の検討、近代遺産、戦間期の変化や高度経済成長期に造成された風景研究に至るまで、先住民族以外の人々により形成された風景についてのものが大多数である。発表者もこれまで、人間の営みがつくり出す風景と、人々の風景への見方(風景観)に関する研究を行ってきたが、それも先住民族以外を対象としていた。しかし、先住民族が存在する地域は本来、歴史的な風景が非常に多層的であると考えられ、先住民族のつくり出した風景や、入植者の手による風景を研究することは、その重層性の解明に大きく寄与するはずである。よって本研究では、歴史的な風景が本来重層構造をなすと考えられる蝦夷地(北海道)を対象とし、先住民族であるアイヌ民族と、蝦夷地に入り込んだ和人に関わる風景を歴史地理学の視座から探究していく。

### 2. 研究の目的

アイヌの生活の基底にある風景に対する見方(風景観)をアイヌ語地名から明らかにすること、江戸時代の和人が持った蝦夷地各地への評価および風景観を解明すること、前2者の比較から、アイヌと和人の風景観を比較し、違いや共通点を明らかにすること。

### 3. 研究の方法

江戸末期の最も詳細・網羅的な蝦夷地図である「東西蝦夷山川地理取調図」の全ての地名を、道や人家等の記号との関係と共に整理し、その中で肯定的な意味の言葉が付く地名を選出した上で地図化する。また人家や運上屋、道との関係性を含めて分布を分析する。和人の風景認識を検討するために、幕末の蝦夷地に関する案内記『蝦夷行程記』における風景評価・場所認識に関わる文章を抽出し整理する。

### 4. 研究成果

本研究では以下の3点を成果として報告する。

1点目は以下である。松浦武四郎作「東西蝦夷山川地理取調図」のうち、択捉島と国後島を除く蝦夷地を検討対象とし、記載される全ての地名を、道や人家等の記号との関係と共に整理した。検討対象とする地名総数は9366であり、そのうち、肯定的な意味を持つ地名として、「ベレケ(ヘケレ):明るい」「ピリカ(ヒリカ):美しい・綺麗・良い・立派」「ポロ(ホロ):大きい」「カムイ(カモイ):神」「モシリ:静かな大地」「トム:輝く」「ミケ:輝く」が付く182の地名を選出した。それら182の地名の意味を、萱野(1996)や山田(2000)をもとに訳出した上で、当該地名の分布図を作成した。その結果、必ずしも人家のある所に抽出した分布点が存在する場合ばかりではないと判明した。また、特に道央の夕張山地や天塩山地付近等、少なくとも和人が認識・使用した道や、運上屋等の交易に関わる場所から離れた場所にも、アイヌの人々が特別視したと考えられる場所は存在することが分かった。地名とその分布から考えられるアイヌの人々の風景観と、蝦夷地の案内記から読み取りうる和人の風景観や場所認識とを比較すると、風景や場所を評価する際の観点が両者で異なる可能性が高い。特に和人が海産物や鉱山資源等を得られる場所、

高所からの眺めや見晴しの良い場所などを評価していたことに対して、アイヌの人々はその土地における生活者の目線で、アイヌの人々の自然観・山や川などの自然に畏敬の念を持ち、時に神の存在を見出すアイヌの人々の場所認識と共に捉えた風景観を有していると考えられる

2点目に、蝦夷地に関する案内記『蝦夷行程記』から、和人の蝦夷地各地への場所認識を分析し、和人が蝦夷地各所を評価する際の指標には、以下があることが分かった。1 産物の有無への着目(鮭・鯿・蛤・鱒・鮑・烏賊・鱈・昆布・帆立・海鼠・いりこなどの雑魚の漁場の有無、オットセイの漁場、砂金の採掘場所、熊や鹿の出現場所、温泉の有無、檜・桂等の樹種、また良材への着目、鉱山への着目)、2 その場の風景や眺めへの賞賛・繁昌地への着目(海岸が絶壁かつ茂林で美しいことへの賞賛・奇石の突出する風景や高山山頂の雪景色、また瀑布が海に落ちる様への賞賛・山の眺望の見事さへの着目・桃・梅・桜の見られる風景への賞賛・小休所が海上に張り出す風景の良さへの着目・諸国廻船の往来地等で繁昌していること)、3 通行に関する視点(川における船渡しの有無・船濶が良い場所か否か・通行が困難である場所への着目・砂浜の質の特筆・河川の広狭)、4 その他(神社の社の有無・人家における商人や妓女の有無)

3点目に、北海道十勝地方にフィールドを持ち、現地調査を敢行する中で、当初想定していた以上に人脈が広がり、アイヌ民族の方々等から、その営みが作り出す風景に関わるお話を多く伺うことができたことである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------